

学校運営協議会だより

令和6年3月29日発行 第2号

令和5年11月6日(月)、第2回学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を紋別養護学校ひまわり学園分校で行われました。当日は、学校長を含め13名の委員の皆様にご出席いただきました。今回は、熟議を中心に、その他は、ひまわり学園分校の小学部・中学部・高等部の授業、施設見学を行い、子どもたちや授業の様子を、施設の状況を知っていただく良い機会となりました。



グループ協議(熟議)のテーマ

- ①「地域資源を活用した教育活動について」 ②「卒業後の地域社会生活(就労・生活)について」

【Aグループ】

テーマ①夏祭りへの子ども達の参加交流。実行委員会への教員の参加を模索する。学校だと土日開催や夏休みだとかの帰省してしまうので何かうまく繋がりを作っていけないか。老人ホームで、学習発表会などで演じた物を見ていただくことで喜んでいただき、それが子ども達の励みにもなるのではないかな。外部人材と言うところでは、教育委員会の生涯学習課に人材バンクを活用。

テーマ②一般就労というところで難しい部分はあるが、現場実習で先生方が見守りという中でできることはたくさんある。仮雇用期間など含め実際の就労に結びつけて行くかを模索する必要がある。作業学習などを活かしながら、雇用先を見付け先生方の進路開拓や地域からの情報しつつつつけていけるのではないかな。

【Bグループ】

テーマ①学校の情報の発信力の発信方法としてHPやSNSも意見が出されたが、地元の新聞などに積極的に働きかけて学校の行事を進めていくことが大切。商工会の会議所便りを発行しているので、企業とのつながりの強い、そのネットワークを利用させていただいて、学校便りといった地域便りを各方面に発信することが大事。また、地域の祭りへ参加する機会は、特別支援学校の子どもたちを知ってもらえる絶好の機会。これからどのような参加の形があるのか実行委員会と一緒に探っていく。

テーマ②卒後のフォローアップを考えていく中で、インクルーシブ教育と言われる中、互いの理解とか共生社会という観点から考える。学校間の連携では、児童生徒同士の交流の少なさが指摘された。交流学习や共同学習を取り入れる必要性もある。地域イベントが土日開催なので、学校は土日の行事等に参加が難しい。障がいのある方々の雇用機会を拡大には、特別支援学校の実際の活動を知ってもらうことが大切。商工会だよりを通じて障がい者雇用に関心のある企業への情報発信も重要。

【学校長より】

今回の熟議において、地域資源や卒業後の社会生活をテーマにあげたのは、このような取組を通して、地域の方々にそれぞれの学校に通う生徒達を知ってもらいたいという思いがありました。子ども達にとっての本物の体験や、本物の人と多くふれあうということが、子ども達の社会経験に繋がる場面をたくさん見てきました。そういった経験を、どんどん子ども達と我々教職員、地域の方々が一緒に経験していく中で、たくさんの可能性を探っていきたいと考えています。